

書名 項目	<h1>新編 新しい社会 歴史</h1>	2 東 書
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」で構成されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのまとめ「チェック&トライ」では、学習した用語の説明や因果関係を要約するといった思考を促す工夫がされている。 ○資料の読み取りを促す「活動コーナー」が設けられており、思考力・判断力・表現力等を育成する工夫がされている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○1単位時間の学習で追究する学習課題を示すことで、生徒が見通しを持って授業を進めることができるよう工夫されている。 ○1単位時間ごとに「チェック&トライ」が学習課題とリンクしており、生徒が主体的に振り返り活動ができるよう工夫されている。 </p> <p> ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各時代の導入に小学校の振り返りがあり、「みんなでチャレンジ」では個人活動から小集団への協働的な活動が設けられ、過去の学習や他者との意見交換から単元を貫く問いへつなげられる構成となっている。 ○章末「まとめの活動」では、「探究のステップ」と「深めよう」の項目が設けられ、各章の問いを解決していきながら、スムーズに探究課題の解決に向かうことができるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p>○見開きの上部に目を引く大きな資料や探究の中心となる写真等が掲載されており、学習意欲を引き立てる工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。</p> <p>○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。</p> <p>○各見開きに「スケールインデックス」という年表が掲載されており、学習している時代が視覚的に把握できるようになっている。</p>	
総 括	<p>○教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、持続可能な社会の実現を意識しながら学習を進めることができるよう配慮されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</h1>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、本文、資料、学習活動で構成されている。また、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」が設けられている。 ○絵や写真、新聞、地図や系図など学習中に活用できる資料について、資料活用の方法や手順を示す「歴史の技」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめの「表現」では、学習内容を自らの言葉で説明したり、対話したりすることで事象を解釈して、表現できるよう工夫されている。 ○「歴史の窓」やテーマ学習のページでは、個人やグループワークで歴史的事象について多面的・多角的な思考や考察を深められるよう工夫されている。 ○章末「学習のまとめと表現」では、時代の特徴を言葉で具体的に説明する活動が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせてより深い学習ができるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の導入「これから学習する時代」では、資料や図版が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読むことで、見通しをもって進められるよう工夫されている。 ○生徒が自ら資料を読み解くために「THINK!」のコーナーを設け、生徒が主体的に読み解きを行うときの手立てとして活用できるよう工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の導入「これから学習する時代」では、その時代を象徴する資料とそれに関係する問いが表示され、見通しをもって学習が進められるよう工夫されている。 ○巻末「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、現代・未来の社会を築いていくため、自分たちの役割を考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に参加する態度を養えるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開き上部に探究の中心となる、導入・中心資料が写真などで掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文等には、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設定されている。資料には、見開きで通し番号が付けられており、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、人権や平和、環境、災害・防災等、現代社会に見られる様々な課題や、それにつながる歴史を取り上げ、自己と社会・歴史とのつながりについて、考えを深められるよう配慮されている。 ○高等学校での近・現代史中心の「歴史総合」に向けて、通史学習の充実が図られ、小学校・中学校・高等学校の学びのつながりが意識できるように配慮されている。 	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">社会科 中学生の歴史</h1>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 帝 国 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入・学習課題・本文で構成されている。また、学習内容を振り返る「確認しよう」と「説明しよう」で構成されている。 ○「資料活用」のコーナーでは、歴史的な見方・考え方を働かせるのに適した写真・資料が見開きごとに用意されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歴史を探ろう」では、特定の地域を多面的・多角的に捉えた地域史や人物史が掲載されており、上部にある「疑問」に回答することで、思考力を育成できるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「章の問い」「節の問い」「見開きの問い」と授業を総括した単元のまとまりで課題解決的な学習、深い学びにつなげられるよう工夫されている。 ○「タイムトラベル」では、生徒に単元のはじめで時代の特色を見通し、本文と関連付けたり、眺め直したりすることで、時代の振り返りができるよう工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習を振り返ろう」では、節ごとの学習内容を整理した後、「タイムトラベル」を活用した比較や振り返りを行うことで、段階的な課題解決の手法を学び、単元を貫く課題への関心を高める工夫がされている。 ○「これからの社会を構想しよう」では、学習課題と公民的分野の学習との関連付けを行うことで、現代的な課題解決の鍵を探る学習活動ができるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○導入で用いる「タイムトラベル」は、見開きの大きな資料を用いて、視覚的に時代のイメージを捉えやすくなるよう工夫されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、学習の手がかりが示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しを持つための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が2つ示されている。 ○見開きの上部に、学習の中心となる資料と、本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、地図や図表の掲載に工夫がされており、視覚的に学習しやすく、様々な資料から歴史を捉えなおすことが可能な構成になっている。他分野との接続も意識的になされているため、社会科全体を多面的・多角的に考えることができるようになっている。 ○「小学校・地理・公民・他教科の関連」を「小・地・公の関連アイコン」で示すことで既習事項やつながりを確認することができる。 	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">中学歴史 日本と世界</h2>	81 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">山 川</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入の発問・本文・「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるよう工夫している。 ○用語解説が見開きごとに付されており、学習で用いる知識の確認をスムーズに行うことができるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ステップアップ」では、学習内容の整理や、因果関係や目的などを考察する問いが設定されており、より深く歴史的な事象を思考できるよう工夫されている。 ○「歴史を考えよう」では、現代に関わりのある史料や図表が豊富に掲載されており、それを用いた話合いや考察を通して、思考力を養えるよう工夫されている。 ○「歴史へのアプローチ」では、時代を通した視点・グローバルな視点で見たテーマやより詳細な事象について扱っており、歴史的な考察を深めることができるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもてるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめる資料を用いることで、見開きの冒頭に学習課題が明示されている。 ○各章末の「まとめ」では、基礎的な知識の確認や章全体を別視点でまとめ直す課題を設定することによって、生徒が主体的に振り返りを行えるよう工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各見開きに学習課題に関連した豊富で多様な発問が掲載されており、主体的・対話的で深い学びを促し、社会的事象の見方・考え方を身に付けることができるよう工夫されている。 ○日本の歴史だけではなく、世界の歴史を充実させるとともに、日本との関連や現在の国際情勢への影響等の視点を記述内容に取り入れることで、より多面的・多角的な視点で学習課題を追究できるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に、世界と日本の出来事を上下に分けて示す帯年表が付されており、視覚的に歴史の流れをつかむことができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。 ○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。 ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体が、歴史的な出来事の因果関係や背景などを詳細に追うことで、より深い学びを実現できるよう工夫されている。また、図表やグラフといった資料だけではなく、史料の掲載を積極的に行うことでより歴史的な技能や思考を涵養できる。 ○高等学校の歴史学習につながる教科書として、中学生の段階として必要なことが身に付くように配慮されている。 	

書名 項目	<h1>中学社会 歴史的分野</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題・本文・「確認」で構成され、「確認」では学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されている。 ○「スキルUP」では、歴史学習を進めるに当たって必要な技能を解説している。社会的事象等について調べ、まとめる技能が身に付けられるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「表現」では、学習内容を振り返りながら、自分の言葉で説明する問いが設けられている。 ○章末「○○の特色をさぐる」では、習得した知識を関連させ、時代の特色を考え説明したり、話し合いや意見交換したりする学習活動が設けられている。 ○見開きの「見方・考え方」では、学習課題の解決に向けた手がかりが示され、「深めよう」では、問いを通して多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「『歴史との対話』を未来に活かす」では、テーマ別索引が設けられ、災害・政治参加・世界平和について主体的に考えることができる学習課題が示されている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページが設けられている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、学習の「単元を貫く問い」を明示して学習の見通しをもてるよう工夫されている。 ○歴史の学習の最後「歴史との対話を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史を踏まえて未来を考える学習活動が設けられている。 </p>	
資 料	<p> ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しを持つための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。 ○見開きの右端に学習している「時代」を色で示した年表が掲載されている。見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民的分野との関連が示されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文等には、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しを持つための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。 ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書全体を「私たちと歴史」「古代までの日本と世界」「近世の日本と世界」「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の6つに編成し、詳細な学習に陥ることがないように学習内容の焦点化を図るための配慮がされている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい歴史教科書</h1>	225 自由社
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料・学習課題・本文・「チャレンジ」で構成され、学習活動や知識の定着を確認する問いが提示されている。 ○「もっと知りたい」では、歴史的人物や史跡の背景などがピックアップされており、より詳細な知識を確認することができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「チャレンジ」では、学習内容を理解しているか確認するために、自分の言葉で説明する問いが設けられている。 ○章末「時代の特徴を考えるページ」では、各時代の特徴を大観する「人物比較」や『『ひとこと』作文』など、自分の言葉で学習内容をまとめる活動が設けられている。 ○章末「調べ学習のページ」では、課題が提示され時代ごとに比較検討できるページが設けられており、多面的・多角的に時代を考察できる。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○章末「対話とまとめのページ」では、まとめ図から章の時代を大まかに考える会話が掲載されており、より関心を高めて章の振り返りができるよう工夫されている。 ○「歴史の言葉」では、語句の成り立ちや歴史についてまとめられており、より関心を高めて資料の読み取りができるよう工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入では、年表や図版を用いて時間軸と空間軸から時代を概観し、学習の見通しをもてるよう工夫されている。 ○日本の歴史の特色は何かを捉えるために「調べ学習」や「対話とまとめ図」が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養えるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には解説やイラストを用いたコメントも用意されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文等には、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○各章の章扉に大きな図版と年表が掲載され、歴史の大きな流れを確認することや生徒の興味・関心を惹く工夫がされている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書全体を通して、歴史上で扱われる語句や資料、人物などをクローズアップして、歴史の背景を詳細に説明している。 ○高等学校の歴史学習につながる教科書として、中学生の学習として必要なことが多面的・多角的に身に付くように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h1>新しい日本の歴史</h1>	227 育鵬社
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成されており、つかむ、調べる、まとめる、表現するという順序になっている。 ○「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史の情報収集を行うとともに、レポートにまとめ、発表する方法が示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見方・考え方」のコラムでは、グラフを読み取る力や論述する力を高めるため、発問の工夫がされている。 ○「資料活用」では、資料の特徴をまとめる思考力や判断力を養う工夫がされている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○序章「“虫の目”で見る歴史」では、歴史を学ぶ意欲が高まるように、人々の生活を描いた図画や写真から、考え、発表したりする活動が設けられている。 ○「歴史ビュー」では、歴史に関わる出来事の意味や伝統と文化の特色などについて、多面的・多角的な視点で学習することができる。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもちながら学習を進めることができるように、見開きごとに資料を使い問題解決できるような学習課題が明示されている。 ○各章冒頭の「“虫の目”で見る歴史」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養えるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や、本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しを持ったための学習課題と学習のまとめの二つの課題が示されている ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。導入資料には発問をつけ、資料を読み取る視点が示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○図版は、カラーユニバーサルデザインが使われている。 ○各章の章扉に「歴史絵巻」が掲載され、歴史の大きな流れと現在の学習範囲が確認できるよう工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の理解をより深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」、歴史上の人物の活躍を紹介する「人物クローズアップ」等のコラムが設けられ、学習に具体性や発展性をもたせるように配慮されている。 	

書名 項目	<h1>ともに学ぶ人間の歴史</h1>	229 学び舎
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p style="text-align: center;">※見本本がないため研究なし</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p>	
資 料		
表記・表現		
総 括		

書名 項目	<h1>国史教科書 第7版</h1>	236 令書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 単位時間が単元により、2～6 ページで扱われ、学習課題、本文、文献史料で構成されている。欄外に資料の補足があり、理解を深める工夫がされている。 ○巻末に資料がまとめられていることで、時代による地域の変化や芸術作品の違い等が把握しやすくなるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歴史を体験する」では、体験的な活動を行うことで、思考力・表現力を高めるための問いが設けられている。 ○「章をふりかえる」では、学習した歴史的な知識を表現できるように、設問が用意され、知識を活用できるよう工夫されている。 ○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせ、各時代の特色を考察し、深い思考や表現につながるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の冒頭では、世界地図中に学習する時代の各地の様子や遺跡の写真、資料を掲示して、時代の概観を見渡して学習できるよう工夫されている。 ○指導的な人物の紹介だけではなく、様々な分野・階層の人々の生活、社会的事象を説明し、人々の労働や生き方を学べるよう工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、扉ページで各時代の「学習課題」が示されており、世界地図・写真等の資料から、時代の特色を考えていく構成になっている。 ○現代史を充実させ、歴史を今日の課題と結び付け、よりよい社会の実現に向けて考え、公民的分野の学習につなげられるよう工夫されている。 ○現代史の学習では、21 世紀までテーマを設定し、歴史的事象を今日の社会と結び付け、よりよい日本の社会と世界の実現を視野に、様々な社会の課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養えるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。 ○側注・グラフ・資料等から、歴史的事象や課題について多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○地図・グラフは、カラーユニバーサルデザインが採用されている。 ○見開きの見出し・資料名は、フォントを変えて表記されている。見開きに生徒の関心を高めるタイトルと見通しをもつための学習課題が示されている。 ○本文は敬体で記され、学年に応じた文章表現や漢字が使用されている。資料には、見開きで通し番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を通して、疑問や問いが生まれやすいよう図版や記述が工夫されている。また、主体的な学習を妨げないよう、本文中の太字をなくしている。さらに、多様な視点で歴史を学ぶことができるよう配慮されている。 	